

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【沼影小学校】

| | | |
|----------|---|--|
| ⑥ | 次年度への課題と学力向上策 | |
| 知識・技能 | 基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られる。児童一人ひとりのつまずきを把握し、繰り返し学習や補充的な学習を充実させるなど個別最適な学びを一層行っていく。教師が児童へ目標値やゴールを示し、達成できるようにサキドリ研究の裁量の時間を活用していく。引き続き、「個別最適な学習」「協働的な学習」となる授業となるよう教科サークルごとに研修を行っていく。 | |
| 思考・判断・表現 | 高学年では市平均を上回る結果が見られたものの、中学年では課題が見られる。問題解決の過程を大切に、自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりする学習を充実させるなど、協働的な学びを一層行っていく。考えの根拠を明確にして表現する活動を日常の授業の中で積み重ねることで、思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。 | |

| | | |
|----------|--|---|
| ① | 今年度の課題と学力向上策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | <学習上の課題> 国語科では言葉の特徴や使い方に関する事項と読むことに関する事項について、算数科では数と計算分野について課題がみられる。 <指導上の課題> 学習内容についての課題の把握と振り返りの時間の確保が徹底できていない。 | ⇒ 児童や学級の課題に応じて「ドリルパーク」等のICTを活用した教材やミニテスト等の反復演習に取り組む。【週1回程度のペースで実施】 日常の学習の中で5分以内の短時間の習熟や振り返りの時間を確保し、既習事項の定着を図る。【毎時間設定】 |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題> 特に算数科において図形やデータの活用のように思考や表現が伴う問題に課題がみられる。 <指導上の課題> 児童自ら課題や問いをみつける指導が徹底できていない。 | ⇒ 「個別最適な学び」「協働的な学び」を基にした「真の学力」の育成を目指し、全教職員が取り組む。特に活動の中でICT(クラウド)環境を活用した共同編集等の協働的な学びを取り入れ、自らの考えを他者と比較・検討しながら、進んで考え表現できるようにする。さいたま市学習状況調査「学習した内容」について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることで、いままでの質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上を目指す。【週年-1日1時間以上】 |

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

| | | |
|----------|-------|--|
| ⑤ | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 |
| 知識・技能 | A | 学力、指導力向上ため、研修の時間において、各教科サークルごとに分かれ、研究授業、公開授業を行っている。児童の知識・技能が高まるよう、指導案検討を行い、今年度は効果的な導入を行うことを意識する教職員が多かった。各教科で共通の目標を決め、授業実践を行った。 |
| 思考・判断・表現 | B | 学びポイント「じ・し・や・く」の掲示物を各クラスに掲示し、「じがんできる」「しこうする」「やってみる」「クラウド」を意識した授業でくりを行うことを意識している。6年生の理科の学習では、自由進度学習を取り入れ、自分たちで課題を決めて、試行錯誤しながら学習に臨む姿が見られた。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

| | | |
|----------|---|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語科、算数科、理科ともに、埼玉県、全国の平均値を大きく上回っている。特に、理科においては、平均を大きく超えることができた。国語科の情報の扱い方に関する事項においては、平均は上回っているが、平均値に近い数値である。情報と情報との関係付けの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるよう、情報処理能力を高めていく。 | |
| 思考・判断・表現 | 知識・技能同様に、埼玉県・全国の平均値を大きく上回っている。今後は、自分で新たな問題を見だし、多様な方法で表現することができるよう力をつけていく。 | |

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

| | | |
|----------|---|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語・算数ともに学年が上がるにつれて市平均との差が改善し、高学年では、市平均を上回る結果が見られる。特に6年生では、国語・算数の知識・技能の定着が進み、市平均を上回る結果となっており、基礎的・基本的な内容の理解が積み重なっていることがわかる。学年によって市平均との差が見られる領域もあり、個別に支援する取組の充実が必要である。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語・算数ともに、高学年になるにつれて市平均との差が改善し、6年生では市平均を上回る結果が見られる。問題解決の過程を説明したり、考えを交流したりする学習活動を通して、自分の考えを整理し表現する力が育成されてきている。中学年では、市平均を下回る結果も見られ、考えを言語化したり説明したりする力の育成に課題がある。自分の考えを説明したり交流活動したりする学習を一層充実させる必要がある。 | |

| | | | |
|----------|-------|--|----------------|
| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | B | 全教職員が、個別最適・協働的な学びを意識し、授業に臨んでいる。短時間の習熟や振り返りの時間を確保し、既習事項の定着は図れているが、ICTを活用した反復練習にはまだ課題がある。 | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | B | ICT(クラウド)機器を活用した協働的な学びの実践においては、課題があるため、今後研修等を通じ、効果的なICTの活用技術を高めていくことが必要である。自分の考えを他者と比較検討しながら進んで考え表現できる授業をほぼ全教職員が行っている。 | 変更なし |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)